

## 第3回

### 資料4

- |   |                |      |
|---|----------------|------|
| 1 | 全国募集           | ・・・1 |
| 2 | 国際バカロレア（IB）認定校 | ・・・6 |



# 1 全国募集

## 1 全国募集について

本県における県外生徒の受入れについては、県立高校入学者選抜において、原則として、「本人及び保護者が本県内に居住している、または近く居住することが確実であること」を志願資格としており、生徒単独の移住を前提とした受入れは行っていないのが現状。

### 全国募集実施による効果と課題

※「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」(R5.5)より

例えば、島根県で実施している「しまね留学」では、大都市圏の生徒と地元生が交流することで「刺激を受けて学習意欲が高まった」、「外からの視点に触れることで地域の新たな魅力に気付いた」など、教育上もよい影響があった事例が報告されています。また、高校生に限らず地域の転出抑制や転入増加も促すといった調査結果も報告されています。

なお、全国募集の先行事例を見ると、生徒単独の移住を前提とした受入れを行っている例もありますが、生徒受入れの宿泊施設や生徒の食事など日常生活の世話をする人材や体制、経費等の課題があります。また、高校と地域とをつなぐコーディネーターも配置されており、これらの人材配置や生徒募集に継続的な費用が必要となることから地域の協力も不可欠です。

県外生に対して、寄宿舎または地域と連携した宿泊施設を利用可能とする受入れ体制の構築などを検討する必要があります。

## 2 公立高校（都道府県立高校）の全国募集の状況 ※令和5年8月本県調査

(1) 実施団体<R5年度入学者選抜（以下「R5」）という。>

### 38 道府県で実施

※未実施 9 都府県（福島県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、愛知県、大阪府、福岡県）

(2) 実施高校数、入学者数、実施高校のうち欠員のあった高校数

R3			R4			R5		
全国募集を実施した高校数	入学者数	欠員のあった高校数	全国募集を実施した高校数	入学者数	欠員のあった高校数	全国募集を実施した高校数	入学者数	欠員のあった高校数
277 校	824 名	227 校	302 校	896 名	243 校	325 校	1,025 名	269 校

(3) 実施団体における募集条件等<R5>

### ① 募集条件

・すべての高校が、特色のある学科や特定の部活動を対象に募集	20 団体
・特色のある学科や特定の部活動を対象に募集している高校とそうでない高校あり	7 団体
・すべての高校が、特色のある学科や特定の部活動に関係なく募集	11 団体

※実施団体は都道府県に限り調査を実施。

②他都道府県からの受入れ定員

・募集定員内	32 団体
・募集定員と別枠	5 団体
・募集定員と別枠の高校と定員内の高校あり	1 団体

③他都道府県からの受入れ上限

・すべての高校が受入れ上限を設定	23 団体
・すべての高校が受入れ上限の設定なし	12 団体
・受入れ上限を設定している高校と設定していない高校あり	3 団体

(4) 実施団体における寄宿舎等<R5>

①寄宿舎あり（設置主体は道府県以外も含む）…計 122 校

②寄宿舎なしの場合の全国募集生徒の受入先 ※重複回答あり

・下宿（いわゆるホームステイ）	19 団体
・アパート・マンションなど	17 団体
・ホテル・旅館・民宿など	2 団体
・その他（親戚宅、民間の寮など）	7 団体

(5) 実施団体における身元引受人<R5> ※重複回答あり

・学校関係者（PTA 会長など）	8 団体
・親戚	7 団体
・地元自治体関係者（市町村長など）	6 団体
・その他（下宿先、親権を代行できる者など）	15 団体
・特に定めなし	19 団体

(6) 全国募集の実施にあたっての道府県としての課題 ※自由意見

- ・全国募集生徒の受入れ環境の整備（住環境、食事、身元引受人、コーディネーター等）
  - ・全国募集生徒のサポートに係る地元市町村との連携
  - ・教員の負担の増加（募集活動、問合せへの対応、寄宿舎管理など）
  - ・全国に向けた PR 方法や費用の負担
  - ・志願者数の減少
- など

### 3 本県における全国募集の検討状況

- ・南砺平高校での全国募集実施について、南砺市と協議中。

#### (1) 南砺平高校の状況

##### ○入試情報

年度	H31	R2	R3	R4	R5
募集定員	31名	32名	30名	30名	30名
合格者数	24名	28名	28名	27名	23名
欠員	7名	4名	2名	3名	7名

##### ○寄宿舍

定員 52 名のところ入寮者 34 名（男子 14 名、女子 20 名）

※県立高校では南砺平と中央農業のみ寄宿舍設置。

#### (2) 経緯

R5.7 南砺市から県へ要望書提出 ※以下の2点を要望

- ①全国から生徒を受け入れられるよう学校、地域と連携し、高校魅力化に向けた体制の構築。
- ②既存の寄宿舍について、現行の平日のみの利用から、休日、長期休業期間を含めた利用へ拡大。

R5.8 「魅力ある高校づくりについての講演会」開催(県教委、南砺市共催)

○講師：岩本 悠 氏

(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事、島根県教育魅力化特命官)

○会場：南砺市平若者センター「春光荘」

○出席者：約 70 名

#### (3) 課題

- ・生徒寮を運営していない週末や長期休業期間中の生徒の食事、日常生活の世話をする人材確保や体制づくり
- ・生徒寮を使用しない場合は、生徒を受け入れる宿泊施設等の体制整備。

## 4 視察報告

### 【福井県立若狭高等学校】

#### ①学校概要

- ・ 1 学年 8 学級（普通科 4 学級、文理探究科 2 学級、海洋科学科 2 学級）  
※文理探究科は 2 年次より、国際探究科、理数探究科に分かれて学習。  
※H25 年度小浜水産高校との再編統合により海洋科学科を開設  
※R5.4 より全学科で全国募集実施。
- ・ 全校生徒数（全日制）：756 名（R5.4 現在）

#### ②特色ある取組み

- ・ 教育目標：「異質のものに対する理解と寛容の精神」を養い、教養豊かな社会人の育成を目指す。
- ・ 令和 5 年度入学者選抜より全国募集を実施。県外生徒募集にあたり、（一財）地域・教育魅力化プラットフォームの留学生支援事業「地域みらい留学」に登録。
- ・ 「留学生」サポーターとして、小浜市内店舗や福井県内公共施設など、24 施設（R5.3 現在）が加盟。県外生徒に対して、商品の割引やグッズの提供、入館料減免などにより、地域を挙げて応援。
- ・ 文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール「SSH」（H23～）・マイスターハイスクール「MSH」（R3～）に指定。
- ・ 全学科とも在学 3 年間にわたり、地域資源を活用した探究活動を実施。（「宇宙食サバ缶」の開発は成果の一つ。）
- ・ 海外の連携校と積極的な交流を実施。（アメリカ「マーセッドカレッジ」、台湾「暖團中等教育学校、台湾海洋大学」、フィリピン「デ・ラサル・リパ高校」）
- ・ 文化部、運動部、同好会など合わせて 29 の部活動あり。

#### ③施設設備等

##### ○学生寮「若竹寮」

既存の寮(昭和 44 年建設)の老朽化に伴い、令和 5 年 8 月に学校敷地内に開寮。

〈身元引受人〉小浜市職員

〈舎監〉 現在 5 名を配置。

〈食事〉 寮母 3 名が準備。

平日 3 食提供（昼は弁当）

土曜は朝食のみ、日曜は提供なし。



(若竹寮)

#### ④成果と課題

- ・ 令和 5 年度入学者選抜では、全国募集の定員 6 名（各学科 2 名）のところ、11 名の志願があり、5 名が合格。
- ・ 県外生徒の募集活動に当たり、在校生がプレゼンテーション資料やパンフレットの作成に関わり、教員が指導。

## 【長野県立白馬高等学校】

### ①学校概要

- ・1 学年 2 学級（普通科 1 学級、国際観光科 1 学級）  
※H28.4に普通科 1 学級を転換して国際観光科設置。国際観光科で全国募集開始。
- ・全校生徒数：136 名（R5.5 現在）

### ②特色ある取組み

- ・H26.8 に白馬・小谷両村が県教委へ「白馬高校の経営・運営に参加する地域案」を提出。  
これに基づき、地域負担により全国募集活動等を実施。  
→【地域負担の内容】①寮の整備、②寮生活の管理、③学習研修体制づくり、④全国募集活動（「地域みらい留学」のほか、三大都市圏で独自の学校説明会など）
- ・コーディネーターの配置  
〈業務内容〉地域資源の掘り起こし、学校との連絡調整、企画・調整など  
〈雇用形態〉地域おこし協力隊

### ③施設設備等

#### ○学生寮「しろまパルハウス」

〈所有者〉白馬山麓事務組合（管理者：白馬村長）

男子寮・女子寮は隣接で別棟。建物は元民宿（男子寮）、元大学のセミナーハウス（女子寮）をそれぞれ白馬山麓事務組合が買い上げ。

〈平日夜間および休日の体制〉スタッフ（業務委託）が常駐  
※食事提供の地元業者がスタッフも配置。

〈身元引受人〉白馬村長（組合管理者）

〈舎監〉 現在 2 名を配置。

〈食事〉 外部（地元業者）に業務委託。平日・休日ともに 3 食提供（年末年始、夏休み、春休みの閉寮期間を除く）。平日の昼食は弁当を学校へ配達。

〈洗濯〉 生徒は各自で対応。

〈緊急対応〉 病院への送迎は、学生寮にある公用車を利用して常駐スタッフが対応。



（しろまパルハウス）

#### ○公営塾「しろま學舎」

白馬山麓事務組合が高校敷地内で学習塾を運営（高校は一切関与なし）。生徒の希望する進路が実現できるよう、地域を挙げて支援。授業の学び直しから定期試験対策・入試対策・英検対策など、幅広くサポート。



（しろま學舎）

### ④成果と課題

- ・生活履歴・習慣の異なる生徒が集まり、互いに刺激を受けながら親交を深め、地域と触れ合い日々生活。

（県外からの入学生…H31:22 名、R2：11 名、R3：8 名、R4：5 名、R5：10 名）

- ・高校生活を通じて白馬地域が気に入りに、県外生徒が地域で就職（毎年 1～2 名程度）。
- ・全国募集を行う高校が年々増加し、それぞれの地域の特色を生かした募集を行っているため、一層の差異化、特色づくりを図ることが必要。

## 2 国際バカロレア（IB）認定校

### 1 国際バカロレア（IB）について

国際バカロレア（IB）とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。高校レベルのディプロマ・プログラム（DP）では、国際的に通用する大学入学資格（IB 資格）が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。未来投資戦略2018(2018年6月閣議決定)において、IB認定校等を2020年度までに200校以上にするという目標が掲げられ、2023年3月に目標を達成した。（2023年6月現在211校）

#### 【国際バカロレアの教育プログラム】

##### ◇DP(ディプロマ・プログラム)

－16～19歳を対象とした2年間のプログラム。主に高校で導入。  
日本語DPは、6科目中2科目を英語等で履修。

##### ◇MYP(ミドル・イヤーズ・プログラム)

－11～15歳を対象とした5年間のプログラム。主に中学で導入。  
どのような言語でも提供可能。

##### ◇PYP(プライマリー・イヤーズ・プログラム)

－3～12歳を対象とした5年間のプログラム。主に幼稚園、小学校で導入。  
どのような言語でも提供可能。

#### 国際バカロレア（IB）認定による効果と課題

- グローバル人材を育成するための有効な方策の一つである。
- 生徒の選択肢が広がる。
- 国内外への進路の多様化に途を開く。
- 教師と生徒双方に高い外国語能力が求められる。
- 高度な指導ができる教員の確保が難しい。
- カリキュラム開発等に時間がかかる。

#### ※「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」(R5.5)より

国際バカロレアについては、グローバル人材を育成するための有効な方策の一つであり、生徒の選択肢が広がり、国内外への進路の多様化に途を開くという利点があります。一方で、教師と生徒双方に高い外国語能力が求められ、高度な指導ができる教員の確保が難しくカリキュラム開発等に時間がかかるなどの課題もあります。

グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働し、課題を発見し、問題解決をしていくという機会があることは重要です。一方で、日本の学習指導要領とのマッチングや英語の人材の確保、エキスパートの招聘、予算の創出等の課題が多いことも踏まえて、設置によるメリットとデメリットを精査するなど、研究を進める必要があります。



## 2 認定プロセスと経費

関心校	1年目1月	スクールインフォメーションフォーム提出
	1年目3月	候補校申請提出（4月1日締切）
	1年目4～7月	書類検討・候補校認定通知
候補校	1年目9月～2年目3月	コンサルタント決定・コンサルタント訪問
	2年目3月	認定校申請提出（4月1日締切）
	2年目4～9月	書類検討
	2年目10月	申請書フィードバック
	2年目11～12月	確認訪問
	3年目2～3月	確認通知
認定校	3年目4～8月	授業実施準備期間
	3年目9月～	授業スタート

- ・初期投資

設備整備(実験室等)、候補校申請費・候補校年会費

- ・年間経費

人件費(外国人教員2人程度、IB有資格者12人程度)

認定校年会費、教員のワークショップ受講費

## 3 公立高校・中等教育学校の国際バカロレア認定状況

都道府県	設置形態	名称	学科	定員	国際バカロレアコースの定員	DP	開設年
北海道	中等教育	市立札幌開成中等教育学校	グローバル科	4学級160人		◎	H31
宮城	併設型	宮城県立仙台二華中学校・高等学校	普通科	6学級240人 (中学105人)	25人	◎	R3
埼玉	中等教育	さいたま市立大宮国際中等教育学校	普通科	4学級160人	上限なし	◎	R5
東京		東京都立国際高等学校	国際科	6学級225人	・日本生徒15人 ・外国生徒5人 ・9月入学者枠6人	○	H28
神奈川		神奈川県立横浜国際高等学校	国際科	5学級185人	・20人 ・海外帰国生徒5人	◎	H31
山梨		山梨県立甲府西高等学校	普通科	5学級200人	上限なし	◎	R3
滋賀		滋賀県立虎姫高等学校	普通科	5学級200人	20人	◎	R2
大阪	併設型	大阪府立水都国際中学校・高等学校	グローバル探究科	4学級160人 (中学80人)	20人前後	◎	R2
鳥取		鳥取県立倉吉東高等学校	普通科	5学級200人	20人	◎	R5
広島	併設型	広島県立広島観智学園中学校・高等学校	普通科	2学級60人 (中学40人)	全生徒	◎	R4
高知	併設型	高知県立高知国際中学校・高等学校	普通科 グローバル科	普通科5学級200人 グローバル科2学級80人 (中学117人)	グローバル科より20人	◎	R3

※定員、国際バカロレアコースの定員は令和5年度の人数

※DP欄の◎は、日本語DP実施校

※大阪府立水都国際は、公設民営(管理運営は大阪YMCA)

## 4 視察報告

### 【滋賀県立虎姫高等学校】

#### ①学校概要

- ・ 1 学年 5 学級（普通科）  
※ 2 年次よりディプロマ・プログラム（DP）の選択が可能（最大 20 人）
- ・ 平成 28 年度 候補校申請
- ・ 平成 30 年度 認定校申請
- ・ 令和元年度 DP 認定
- ・ 令和 2 年度 DP 1 期生入学

#### ②特色ある取組み

- ・ 西日本の公立高校としては初めて DP に認定。令和 3 年には、米国ウェスタン・ミシガン大学との間で生徒の進路に関する協定を結ぶなど、海外の大学への進学サポートを実施。
- ・ 平成 24 年度から、SSH 研究指定を受け、10 年間にわたり理数系探究教育の研究開発に取り組んでいる。すべての生徒を対象とした探究型の理数系教育を推進。

#### ③施設設備等

- ・ IB 専用教室 3 教室（ホワイトボードやスクリーン式電子黒板等設置）
- ・ 実験室（シャワー、薬品庫）
- ・ 図書館（IB 関連図書）



（IB 専用教室）

#### ④成果と課題

〈広報・周知等〉

- ・ 中学校や保護者の、国際バカロレアに対する認知度が低く、県教委でリーフレットを作成し、中学校 3 年生全員に配布。

〈IB 生の現状〉

- ・ DP プログラムに取り組むためには、英語力や思考力、表現力が求められるため、対応できる生徒は少ない。

〈人材確保〉

- ・ 国際バカロレア機構が実施するワークショップを受講し IB 教員の資格を得た教員が必要。
- ・ 持続可能な学校運営のためには、IB 教員の有資格者の人数確保が必須。
- ・ 外国人教諭は全世界に募集をかけているが、全国的に獲得競争が激しく、確保が困難。

〈予算確保〉

- ・ 国際バカロレア機構への申請費や年会費、施設設備費、書籍代など認定及び維持に多額の費用が掛かる。



（可動式ホワイトボード）

## 【宮城県立仙台二華高等学校】

### ①学校概要

- ・ 1 学年 6 学級（普通科）、中高一貫校（中学部定員 105 名）  
※ 2 年次よりディプロマ・プログラム（D P）の選択が可能（最大 25 人）
- ・ 平成 30 年度 候補校申請
- ・ 令和元年度 認定校申請
- ・ 令和 2 年度 D P 認定
- ・ 令和 3 年度 D P 1 期生入学

### ②特色ある取組み

- ・ 東北の公立高校では初めて D P に認定。
- ・ 国際関係・リベラルアーツではなく、海外大学の通常の学部・学科（医・工・農・経済等）進学を目指す。
- ・ S G H 指定校（平成 26～30 年度）の頃から「世界の水問題への解決」に関する課題研究を行っており、海外での活動や学びに意欲的な生徒が多い。
- ・ 「課題研究」では全員が企業や大学等との外部連携を必須としている。

### ③施設設備等

- ・ バカロレア棟教室（定員 25 名を想定した教室で大型モニターやホワイトボード等を設置）
- ・ 実験室（シャワー、自動ガス遮断装置）
- ・ 多目的教室、屋上（ディスカッション、課題研究等の活動場所）
- ・ 図書館（I B 関係書籍）



（バカロレア棟教室）

### ④成果と課題

#### 〈広報・周知等〉

- ・ H30、31 年度に一般県民向けの説明会を開催。
- ・ R 1、2 年度にリーフレットを作成し、県内の小・中・高校、東北 6 県の大学等に送付。

#### 〈I B 生の現状〉

- ・ 1 年次に「プレ I B」を実施し、I B 類型を継続的に体験することで、2 年次の選択の一助となっている。

#### 〈人材確保〉

- ・ 仙台二華に赴任した教員は、必ず I B の授業を担当。全員で I B を支える体制を整えている。
- ・ 教員 1 名がコーディネーターとして外国人講師に関する各種手続き支援、採用等を担っている。

#### 〈予算確保〉

- ・ 高校の立地条件もあり空き教室が少なく、結果として I B 棟を新設した。



（ディスカッション用の多目的教室）